

こんなときにも地図帳を



国語の授業でも役だつ地図帳

富山大学人文学部 准教授 大西 宏治



1. 社会科以外で地図帳を使う

小学4年生になり、地図帳が配付されると、児童たちは目をきらきらさせて地図帳をめくっていることと思います。ほかの教科書とは違っていろいろな地域のことが「地図」という表現方法で示されていることがおもしろいのと、訪れたことのない場所への想像をふくらませることができるのが魅力なのでしょう。

ところで、知らない場所へのあこがれを生み出す教科は、何も社会科だけではありません。例えば、音楽で海外の曲が取りあげられていれば、その国について知りたくなるでしょうし、国語で遠くの地域の物語が取りあげられていれば、その地域を知りたくなると思います。家庭科でも、日本各地の料理が取りあげられていれば、料理が作られる地方を知りたくなります。

地図帳を使えばわかることは、辞書のようにすかさず地図帳で調べる態度を児童に育ててほしいと思います。また、いろいろな教科で地図帳を使って学習活動を展開してもらいたいとも思います。例えば、『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（以下地図帳）p.63～64はアメリカ合衆国です。6年生でペリー来航を取りあげるとき、ペリーがアメリカ東海岸を出たことが確認できます。単純に太平洋を横断したのではないことがわかり、経路を調べたいと思う児童も出るでしょう。また、農業や工業、食文化などいろいろな要素が記載されています。これらを活用すればさまざまな教科の活動ができそうです。

地図帳を社会科だけのものにしておくのはとてももったいないことです。これから何回か社会科以外で地図帳を使えないか考えてみたいと思いま

す。今回は国語を例に地図帳の活用方法を考えてみたいと思います。



2. 地図帳で宮沢賢治の世界を探る

国語の教科書のほとんどに宮沢賢治の作品が掲載されています。「注文の多い料理店」や「雪渡り」といった物語だったり、不思議なクラムボンが中心に語られる詩である「やまなし」などです。

国語の授業としては、内容を読み取り、筆者の考え方、社会背景を取りあげたり、倫理観について議論したりすることになると思います。また、宮沢賢治という人物を取りあげるとき、「イーハトーブ」という架空の土地でこれらの物語が描かれていることにもふれるかもしれません。これは賢治の出身地の岩手県をモチーフにして考えられました。

イーハトーブにはどんな風景が広がっているのでしょうか。「雪渡り」を読むと夜の凍った風景が想像されます。また、「注文の多い料理店」では、都会から狩猟にきた2人の青年が料理にされそうになります。物語の舞台は狩猟のできる自然の広がった場所ではないでしょうか？ さらに、国語の教科書には直接出てきませんが、彼の作品のなかで「グスコブドリの伝記」はイーハトーブという場所をくわしく説明した作品です。冷害に苦しむ地域ですが、火山噴火による、温暖化で問題を解決しようとするものです。

こんな話を賢治に思いつかせた岩手県とはどんな場所なのでしょう？ そこで地図帳の登場です。まず地図帳のp.1の①「都道府県の区分」をみて、岩手県の位置を確認します。賢治は盛岡の少し南の花巻市出身です。そのあとp.65～66を開き、「日本の自然のようす」をみましょう。①「地

形のようす」をみると、東側の海岸はリアス海岸、すぐ西には北上高地がそびえたち、平地は内陸部に谷のように広がることがわかります。また、③「8月の気温のようす」をみると夏の気温は比較的低く、④「2月の気温のようす」から冬は寒さがきびしいことがわかります。また、⑤「雪の多いところ」から、内陸部は雪が多いこともわかります。実際、東京と花巻の雨温図を比較してみましょう（図1）。冬の寒さがきびしいこと、冬の降水はほとんど雪になることがわかります。

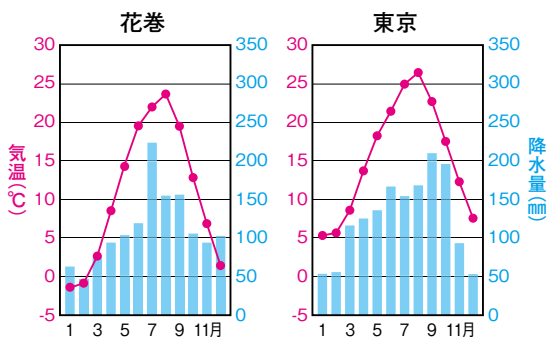


図1 花巻と東京の雨温図（気象庁資料より作成）

次に、地図帳のp.44~46の①「東北地方」をみてみましょう。盛岡の南にある花巻を見ると、「宮沢賢治記念館」の記載があります。ここがゆかりの地なのだとわかります（図2）。また、そのまわりにたくさんの温泉のマーク ♨️ がみつかります。「グスコブドリの伝記」では火山を使って冷害を克服しようとしませんが、今なら地熱発電や温泉水の利用なども物語に書かれたかもしれません。



図2 花巻市の周辺
『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.45

また、冷害の原因も考えてみましょう。地図帳のp.67②「各地の水産業」をみると、親潮という寒流が岩手県沖を流れていることがわかります。この冷たい流れの上を夏にやませという風が吹くと、気温が下がり冷害になることがあります（図3）。

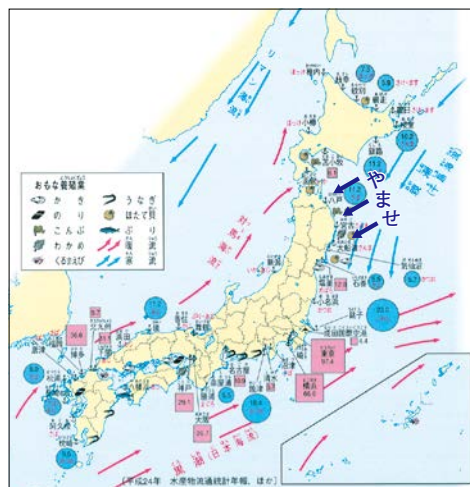


図3 やませのようす
『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.67

作品が書かれた地域のようすを知ると、理解の幅が広がります。

3. おわりに

自然環境の中で生まれ育ったことは、彼の作品のユニークな自然の表現につながっているかもしれません。「原風景」という言葉があります。生まれ育った場所の風景がその人にとって離れがたい愛着のある「原風景」となり、作家の場合はその作品に原風景が投影されるというのです¹⁾。作品の理解を深めるには、取りあげる作品の作家の生まれ育った場所について地図帳で調べるのも一つの方法だと思います。

地図帳は社会科以外の場面でも効果を発揮する教材だと思います。このほかの作品でも、ぜひおためください。

1) 奥野健男（1972）『文学における原風景－原っぱ・洞窟の幻想』集英社